

みぎわ つうしん



NPO 法人みぎわ

〒639-1001 奈良県大和郡山市九条町 1064-9-301

【TEL】070-1811-4115

【MAIL】npo.migiwa@gmail.com

【HP】http://migiwa.link/

【FB】ホームホスピスみぎわ



NPO 法人みぎわは、在宅終末期支援事業者、並びに、奈良県より民間養子縁組あっせん機関として許可を受けた事業者です。

「みんなおんなじ命」 NPO 法人みぎわ理事長 松原宏樹

昨年、九州の小倉において奥田知志先生(日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会牧師・認定 NPO 法人抱僕理事長)とパネルディスカッションにおいて、対談をさせていただきました。

奥田先生は、キリスト教会の牧師であると同時に NPO 法人抱僕の理事長でもあられます。

奥田先生のお働きにより、実に34年間で3400人の路上生活の人々が自立に導かれました。

その対談の中で、奥田先生が言われた二つの言葉が印象的でした。

1つ目は、「ホームレス」と「ハウスレス」は違う。

私たちは一般的に「ホームレス」という言葉を使う場合に、野宿者を意味してその支援内容は、物理的支援であります。

しかし、それは「ハウスレス」支援であり、そこに人と人の絆はなく、家や物があっても家族や友達はいないのです。

そして、人と人の絆があるところに、生きて行く希望もあると言われました。

2つ目が、命の線引きです。

自己責任論のなかで、がんばれない人、生産性を生み出すことができない人は社会から切り捨てられる世の中になっている。

「みんなおんなじ命です」と言われました。

2016年3月 NPO みぎわは、志を一つにする人々とともにホームホスピスを立ち上げました。

障がいがあっても、がんの末期でもどのような社会的背景をその人が持っておられても、あるがまま受け止めて、人生の最後まで家族として寄り添っていく。

すると、意思疎通ができなかった人が心を開き会話ができるようになり、寝たきりだった人が起きて食卓を囲めるようになる。

また、人生最後の瞬間に「ありがとう」の言葉をもって旅立たれました。

「姉はここでの暮らしが一番幸せでした」と昨年召された方のご家族からいただいた言葉です。

また、命の線引きはお母さんのお腹の中にいるときから始まっています。

特別養子縁組の働きの中で、お腹の中の赤ちゃんに障がいがある、また病気を抱えていることがわかったら、出産や育児を放棄される現実と向き合ってきました。

「みんなおんなじ命」です。

私たちはそのような赤ちゃんをあたたかな家庭につなぐ働きをさせていただいています。

今年もそのような障がいを持った赤ちゃんの相談を多数受けており、命の尊さをかみしめながら働いております。

どうぞ今後ともみぎわの働きを覚えてくださるようお願いいたします。

奥田知志先生の著作ご紹介

『もう、ひとりにさせない』（いのちのことば社）



“家（ハウス）だけでなく、居場所・心の拠り所（ホーム）をも失った人々の姿から浮き彫りになる、深刻な日本社会の現状。だれもが「ホーム」を必要としているなかで、教会は、人々の帰るホームとなれるのだろうか。ホームレス支援を始めて22年の著者が、一人一人と交流を続けながら、血の通った「絆」を回復していく過程を、多くのエピソードを通して語る。”

「あたらしい家族」～養子を迎えたストーリー～



「パパのおひざで
「アーメン！」」

結婚して7年が過ぎまだ子どもを授からないでいた私達は、「家庭を必要とする子どもたちの家庭になろう」という思いを持つようになりました。市の里親制度に登録して研修を終えた頃、みぎわさんから「生後2ヶ月のダウン症の女の子が養親を探しています。」という連絡がありました。この知らせを聞いて、私たちの胸の内に全く迷いがなかったわけではありません。養子を育てることは覚悟を決めていましたが、障害を持った子を育てることは、さらなる覚悟が求められている気がしたからです。1週間ほど返事を待って頂き、その間に何度も主に祈り夫婦で話し合う中で、私たちの心にたとえ未知なる領域であっても、神さまが私たちに望むことであれば信じて踏み出そうという気持ちが湧いて来ました。そして「私たちに引き受けさせて下さい。」と迷いのないお返事をする事が出来ました。小さな娘に初めて対面したのは、夫の37才の誕生日。その日から私たちの生活パターンは激変し、赤ちゃんを育てる大変さは想像を超えたものでしたが、この子を自分の子と呼び、またその子が私たちの愛に最高の笑顔で応えてくれる…そんな日々はいのちの豊かさで溢れています。ダウン症により発達が遅くゆっくりなので療育に通ったり、感染症に人一倍気をつけたりと特別な配慮が必要ですが、娘を迎えた後に得たものは山ほどあります。特に、どんなに難しい状況でも、私たち家族がいつも一緒に祈り挑戦し乗り越えて行くチームのようであることを誇りに思っています。

みぎわの毎日

ホームホスピスみぎわ 管理者・副理事長 櫻井徳恵



「お花きれいね～」



「たこ焼きパーティ」



「チェロミニコンサート」



「お庭をお散歩」

漠然とした不安に苛まれる 混沌とした日々。
それでもそんなことは素知らぬ顔でみぎわのお庭には花が咲き、鳥は歌い、風がそよぐ。
スタッフはこの場所に住まれる方々に不安が伝わらないようにふっと心を整えて今日の一日をスタートさせる。今日も与えられた新しい朝。リビングに皆が集まり、それぞれの今日が支えられるように祈り、朝食をいただく。こんな不自由な時、どれだけいつも沢山のものが不足なく与えられ、満たされているのか、みぎわを訪れてくださるたくさんの方々に支えられ、生活が彩られているのか。どれだけ当たり前の日常が幸せなのかを実感し、本当に大切なものは何なのかを確認させられる。いつもは忘れがちな感謝をこの際たっぴりと。出来ることならばスタッフはマスクで顔を隔さずに、住人の方のその目に笑みをたたえた頬や、伝えたい言葉を乗せた口元を映したい。人生の最期の最も大切な時に何にも誰にも遠慮なく家族や大切な人に側にいてもらいたい。
どうかどうか大切な人の集まるこの場所がどうか守られますように。早く安心していろんな人に来てもらえるようになりまますように。祈ってばかりの毎日です。

お庭でお花見

ホームホスピスみぎわ 介護スタッフ 野口美和



今年もみぎわのお庭の桜が咲きました。
リビングやお部屋の窓から覗き「あっ！蕾み」「あっ！開いてきたよ！」と毎日楽しみに観察していました。「さあ！今日はお花見しましょう！」と住民の皆様と『野点お花見』お一人お一人をスタッフが抱き抱

えて中には、車椅子ごと抱えて。「気持ちいいね！」と皆様とっても良い笑顔。生きるという事は、様々なことがあります。嬉しい事、悲しい事それぞれの方が大切に生きてこられた人生の最期に関わることを主が赦して下さいました。欠けだらけの私達ですが用いられている事に心より感謝し、御国への凱旋をお手伝いしたいと願っています。御支援とお祈りの程、宜しくお願い致します。

寄付のお願い

ご支援ありがとうございます！！2019年4月～2020年3月の1年間、100名以上の方々（お名前は別紙記載）から寄せられました会費、寄付金は189万1900円となりました。尊いご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。NPOみぎわの運営は、活動や趣旨に賛同していただいた方の会費やご寄付によって支えられています。引き続きあたたかいご支援を、どうぞ宜しくお願いいたします。

月 1,000 円からのマンスリーサポーターを募集します！

みぎわは、決まった金額を毎月ご寄付くださるマンスリーサポーターを募集しています。継続的にみぎわの活動を支えてくださる方は、安定した活動のためにはなくてはならない応援団です。QRコードのサイトへアクセスいただき、お申し込みいただけます。



賛助会員 3000円(年会費)

【振込先】口座名：特定非営利活動法人みぎわ

- 1 郵便振替口座 記号00910-8 記号311180
- 2 ゆうちょ銀行(他の金融機関からの振込)
店番:458 普通:0899351
- 3 奈良信用金庫 学園前支店 普通:0374195

NPO みぎわでは今後、講演会、映画会、養親研修など開催予定です。ホームページやFBに詳細を随時更新していきますので、是非ご覧ください。お問い合わせは平山までご連絡ください。(np0.migiwa@gmail.com)

●みぎわ活動報告(2019年10月24日以降)● 11/5 令和元年度みんなで里親支援を考える研修会inなら参加 11/9 特別養子縁組講演会開催(岡山) 11/23 養親研修会開催 11/24 養親研修会開催 12/11 養親研修会開催 12/20 奈良市里親ミニ講座参加 1/18 里親啓発シンポジウム参加 2/5 日本財団主催 厚労省への要望書作成意見交換会参加 2/6～7 令和元年度特別養子縁組民間あっせん機関職員研修参加 2/11 特別養子縁組講演会開催(兵庫)